

京川書院

四

			二五	和
	一	九	二	書
	一	七	四	門
五	架	函	號	類

庫	文	門	內	
二		二		和
三		五		書
函		一		
七	五	二		
架	冊	四	類	

內閣文庫		
番號	和	25124
冊數	5	(4)
函號	213	117

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





宮川舎漫筆卷之四

目次

- 一 蜀山人壁書
- 一 女達磨
- 一 吉野の老僧
- 一 猫恩
- 一 年母連物智
- 一 むく鳥と雀合戦
- 一 稀ふ大木
- 一 白雉



東錦繪盤筋

各灸奇方

懸想文賣

神罪

和歌の感應

精心込は魂入

宮川舎漫筆卷之四

宮川舎漫筆卷之四

る山人登書

▲太田覃ハ其号南畝といひ蜀山人といふ又の名は森抱子とも
牛羅山人とも呼ぶ言わば狂言に巧みなり予中雷之海内
すえり

○
年以去が書は清ふもれ多し
麻子素麻扇扇顔屋風被
砂庵多木庵孤山屋を証職の綱表と云ふも予思つて
一て果しなりんむ昔に請りけりは予記より上中
下の品を定む上ハ速に書ゆり中ハ願り是く事なり

下み至りてハ女海ノミマシテハ一ツツケ並ニ
何ハミルハ氣の冷む母任セ孩ハ反故堆中ニ沉メク永却
漂ぶ流るリ

上の部

一 詩歌の心も亦くも人

一 詩歌の心も亦くも人

是置人

名人の画の後

一 表は玉く美く掛りて素人

至り美人の夢中が力多きふ果おろし又れ

玉の受へ

中の部

一 詩歌の好むくワリ可もく活しきく人

一人はきれも亦く自おろし人

一 麻一本短冊ニ之技画一ニ技好む人

この部

一 悪画悪紙本画紙の画一が人

一 畫玉をく結立人は好む人

一 小者の備ひ言りんを麻子り可き多画が極

ひ人

一 伊り一向りてはもまき下並り法と人場くむき

かき人

は頼婦人に至る事

一節達は門外の方道尾屋山にりり「賣人

此分はゆれる事だけけし言する目もはきき事

一節は先づ中々燃流と若の目もはきき事

志のびに何書め件

いふふしつたれを子供はしつたす森懐しつた

あつたあつた家白川候は執政のいせ上一流に

屋敷専ら文武のさのりり先生も親分とさし

一節はつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

表書と遊鶴とふれあつたあつたあつたあつた

月日 太田 實身

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

梅のうらみ... 吾此の... 集... 集... 集...
 日尋... 被... 集... 集... 集...
 接... 接... 接... 接... 接...
 先生... 先生... 先生... 先生... 先生...
 女... 女... 女... 女... 女...
 聖... 聖... 聖... 聖... 聖...
 行... 行... 行... 行... 行...
 ず... ず... ず... ず... ず...

致... 致... 致... 致... 致...
 走... 走... 走... 走... 走...
 と... と... と... と... と...
 画... 画... 画... 画... 画...
 其... 其... 其... 其... 其...
 九... 九... 九... 九... 九...
 九... 九... 九... 九... 九...
 九... 九... 九... 九... 九...
 九... 九... 九... 九... 九...

重人より引合せ申くは習ひし中より名抄本一冊も
あられしむるに申すは予家藏の書に記ししに
事あるに記す

猫園教

▲文化十三子年の由世より学ありし猫園教
せんし日本野田院の理の碑に建法谷の徳善高男と号し
三月十日より由來の儀を西智町時田の三郎の飼猫多るが平
日出入の青を糸より魚を賣しに魚肉を彼猫によしに飼ふ
しつゝも渠が身はつらに猫は出く魚肉と給ふりしありぬ
右の青を糸より賣ししに魚を賣ししに魚肉を彼猫によしに飼ふ

し何人もあはれ金二兩のては快高し高堂のし
侍んとす時田のた至りし時其の猫出づはつし猫は口
しんをい給ふ殺し給ふし其のてを子二もあはれ
まほも言はば度よを喰ふて給ふし保る人よはる度し
まらば給ふて給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし
まらば内書集に殺し給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし
け給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし
出し又せらるる家のまが子給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし
あらし青をの基よを給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし
殺し給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし
給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし給ふし

まら紅きやも彼描の元敵なりし四角院の義女もいふを
凡鬼にありしが、りける猶と多しとゆへ又その猶も
猶もり重きを皆人感ずるに、かゝるに

年みづれ物語

▲文政七申の事ありしが、伊予も手搦り不随をりありし
便利に思ひ又孫妻事をもむと又きしなりをきひかへて
多しの中、一、盆提燈の之れも大なる公法なりて、掲げ
し、かゝるに少く九地打ちありしとす、西斗指りし地大に
を擡ぐぬをひらけ、事地打ちと存に、致と美しき、画と
し、かゝるにむすの地打ちを、ぬすれり、以て、昔金あり

女の母は多し、いかに強き、丹青の画の具は、ゆゑに、しの娘と
るるが、かゝるに、ぬすれ、いかに、金、いかに、價も、あま、な、く、多、く、申、ひ、し、る、ろ
き、ハ、兩、天、と、す、り、す、も、日、も、し、申、ね、酒、法、の、金、な、り、バ、女、を、打、り、日、に、い、は、
武士すも申ひし、る武士もい、申、海、く、い、は、制、禁、は、お、ま、し、す、
瀬戸物は画は、あり、す、夫、と、瀧、紙、系、業、任、出、し、し、り、以、て、画、を、緒、口
益、あり、夫、も、申、し、此、焼、付、の、瀬、戸、物、は、今、も、存、在、す、り、亦、多、く、存、在、す、
ま、は、湯、の、下、神、の、是、は、任、し、く、瀬、戸、物、に、須、信、彫、を、お、れ、り、と、仕、出
し、る、も、多、く、也、此、画、の、な、り、を、い、は、し、す、は、未、だ、い、の、事、を、案、じ、
り、は、い、ん、ん、と、思、ふ、事、の、み、

標鳥と雀合戦

此、事、は、い、か、ん、し、る、事、な、り、
此、事、は、い、か、ん、し、る、事、な、り、
此、事、は、い、か、ん、し、る、事、な、り、

同年七月廿五日より七廿六より夜よ入すむく鳥と雀と合戦
 処も小石川馬場と真光寺と金胜院と又加列候の屋敷の森と
 喰合殊の湯増並性院すすハ教人見物鳥あひだ一鳥の死骸多く涙
 一奇変ありとて身之有書つても性院にえおよぶとてえおほく人
 群集して寺内は容易に入ら奉り難しとあり去月本妙寺持定
 いえお徳左の蔵章ありとありとてえお
 雀入海中成蛤と此鳥よ及んどのめア志ありん教人の標鳥
 哉飛とあり四方より集り湯増並並性院の境内に
 両之むく鳥と雀をそ害やれん老教とては書書持振の
 合戦をば戦もすしとての戦を古より持ありとて
 人の語をりて傍よ居く口もさひりれ

小鳥かきし家ぢりさむく鳥ありとて
 ねむりてさつとて書がをりて
 右むく鳥雀の合戦ハいささか昔の往年予が父の門人小林寺
 あり代官の附すつづれのよとておいんれんが私言戦
 事新原は抗も教も死しそ者之統書書状より戦ありき
 是又奇代の事れん父ありの戦よすねる此標鳥あり
 名戦もありとて

持定孫樹

▲大保七申の業秋見出上り孫樹右も予姪守本阿弥二次郎が
 の孫中親しきりわたり借りてとてえおぬ

紀列熊野の深山に大木有り 齊用、符見出
在里より三十里程奥山に在り

榎 百二十抱
言サ本より末まで三百二十四間半

右枝三ツツ南の方枝拾九抱腹に教子の宿り木

左の道

一 杉 七本 言サ七百本

一 椎 七本 同 五百本

一 柀 六本 同 四百五本

一 柀植 九本 同 同

一 赤松 七本 同 三百本

一 枹 六本 同 二間半

一 竹 六本 同 三百半

一 南天 九本 同 二百本

一 楓 六本 同 五百半

外に小き木七本

一 木紋 八十二本

右より通又出し、下い處大守より伐ふ事、停止必

御出の事

字よ珍し、大木よの言、六も備ふ、是より中より

子男よ、木小よ、多し、いん、も、行、き、以、あ、り、

海、よ、き、ん、だ、お、ま、も、あ、き、う、り、ん、一、と、勢、招、

置い音源太新にもおぼやけしは子當に下至は振はなま
 存いひと
 四月
 六月もも録る上い人皇三十七代孝徳天皇大化の年号始り
 六十月月門のふとりの白紙と献り多るよりふ持と改元者
 一もりの目も度りしつり

東錦繪

毫閑棲雜記といふ新字本より江戸陸と持して平板の画は
 賞就ち新事師宣懐がもとのし平板一枚繪ハ古くより
 りれあれと彩色しはるく奇貞享のひより漸く彩色する

りれ出来しう鳴わのころの鈴木春信くろえて色摺の描画
 とよりれを工尖り言より今までも杜人の形を江戸の石物
 多く他邦の及ふ所も彩りもまた佐佐木彦舞妓役者と娘か
 り此後勝川春章が役者の肖像を画りた名人より今も役者
 の錦繪を賣よけくは始はり

政運云歌宿妓役者似顔も鳥山石燕といふれ画工が始りある
 一しひい塵塚談といふもみさしはりてみせり

歌宿妓役者写真画の子宝曆のころの以画工も山石燕も
 りれも木の茶末も長十ニ尺四五寸幅八九寸の額に女形の中村
 表代三郎が狂言似西の画といふ浅草観音堂の中常香炉の銀
 ち柱に掛りし諸人珍敷りて沙汰ぬ及ひて是江戸

大工の... 水出さるる... 奇しくも... 予兼大工... 水出さるる... 妙なり... 切之... 何草... 但... 古... 松...

切之... 奇... 藥

何草... 但... 古... 松... 大工... 傳... 松...

此者... 四舎... 切... 其... 子... 重...

右の外... 其... 子... 重...

懸想文賣

懸想文の... 京傳... 跡考... 出... 或人文政二年... 借得...

江のきみおとすも申か
 治志浅くぬる海を
 多岐多岐多岐多岐
 遠くよりいほう
 多岐多岐多岐多岐
 舟をこし小松
 舟をこし小松



江のきみおとすも申か
 治志浅くぬる海を
 多岐多岐多岐多岐
 遠くよりいほう
 多岐多岐多岐多岐
 舟をこし小松
 舟をこし小松

舟をこし小松
 舟をこし小松

舟をこし小松
 舟をこし小松

神罪

一家の多き妻を乞ひて 初きよし 去諸侯方乃 以母
 堂は附はりの間に石出されりしは 又表使に
 之の 一は 許すに供ひし 其の許すに 許すに
 内社に 許すに 許すに 許すに 許すに 許すに
 内社に 許すに 許すに 許すに 許すに 許すに
 幸あり 故に 或時 我未か 内社に 許すに 許すに
 一は 男子 平子 許すに 許すに 許すに 許すに

一は 彼えり 許すに 許すに 許すに 許すに 許すに
 内社に 許すに 許すに 許すに 許すに 許すに
 又も 我未か 許すに 許すに 許すに 許すに 許すに
 我未か 許すに 許すに 許すに 許すに 許すに
 中み 許すに 許すに 許すに 許すに 許すに
 内社に 許すに 許すに 許すに 許すに 許すに
 一は 許すに 許すに 許すに 許すに 許すに
 中み 許すに 許すに 許すに 許すに 許すに
 内社に 許すに 許すに 許すに 許すに 許すに
 一は 許すに 許すに 許すに 許すに 許すに
 中み 許すに 許すに 許すに 許すに 許すに
 内社に 許すに 許すに 許すに 許すに 許すに

よな物も道理に... 神も格ふのは... 水天ある... 二位尼... 昔の... 水難火難... 主... 以...

和歌の感應

我日の本... 蜜... 小町... 天満... 捧げ...

天^{あま}の^{つら}き^{つら}に^{つら}は^{つら}六月^{むつき}二日^{ふたひ}九日^{くわにち}七日^{ななひ}
し^しま^まの^の序^{ついで}の^の和歌^{わが}一首^{ひとしゆ}つ^つら^らの^の序^{ついで}
の^の廣庭^{ひろにわ}に^に祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し

昌徳上

と^とあ^あの^のつ^つら^らの^の序^{ついで}
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し

甲^あの^の序^{ついで}
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し
の^の祈^{いのち}を^をす^すま^まの^の為^{ため}に^には^はし^し

忠房

斯^レ精^ル人^ノの言^フ天津神^ノは禱^ル力^{アリ}ありしを依^ルる西^ノの
風^ハ来^ルる矣^ハの^レくも順^ル風^ヲ得^ルる故^ニび勇^ムんと^ル帆^ヲ及^ビ
—と^スるを爰^ニ神^ノの納^メ文<sup>感^ニ應^ズ皆^{人^ノ并^ニ玉^ノのつら}きと
作^ルぶも^ハたの^ク又^ハ九^ノ死^ハ一^ノ章^ハハ^ハつ^レの順^ハ有^ルん^{蜀^ノ山人^ノ}
妻^也。此^ハ出^{産^ノ}産^ヲり^一乳^{少^キ}も^{出^レ}産^レる<sup>乳^{母^ト乳^ノ}
ども折^リく^一子^ノの思^ハは^ハ成^{者^ト}も^{憂^ム}あ^ハし
あ^まば^{先^{生^ト}}大^キに^{致^ス}一^{心^ニ}は^{氏^{神^ヲ}}奉^ル事^ナり
—古^クは^みも^んと^{出^レ}る^も
乳^{中^ニ}出^ル事^ナり
折^レて^は神^も名^も思^ハは^ハ成^{者^ト}も^{憂^ム}あ^ハし
か^ら出^ル事^ナり^一思^ハは^ハ成^{者^ト}も^{憂^ム}あ^ハし</sup></sup>

梓^ノ葉^ノは^{悪^ク}ハ^ハる^{予^ハ}は^はら^りたり
多^クの^ミち^ナる^も
又^{子^ガ}親^ノ—^{長^崎}文^{理^{子^ハ}}性^{任^{道^ノ}}之^也皆^也
は長^崎子^ハは^{悪^ク}ハ^ハる^{予^ハ}は^はら^りたり
折^レて^は神^も名^も思^ハは^ハ成^{者^ト}も^{憂^ム}あ^ハし
か^ら出^ル事^ナり^一思^ハは^ハ成^{者^ト}も^{憂^ム}あ^ハし

トシ

中其靈も格ふあり今時の誠人の中精こ入るるよし又余も
あき謂んあし只今時の意しあよのちきき奈うん細工も
早く仕りけし子習代りて塩増す新くえれりれり細工の
りり物しほち柱くすけりせも物しん得る所を他は見え
ざらぬれは流もあくる是もあよふ具の人物生物の多し是
し多しアを魂の入るよひん更よあり我昔彫物世埋忠も改り
が形をすしすりり埋るる云當時人百の性々りりかき
しを何職も細工の早よりて工夫あふむしりの細工の妙も
あきあひしゆもあよも皆死あつて多し若の細工の全録も
りは水のれがちりり一とん彫るる壺もりり妙も是とて
埋る持傳の品よむしり并りり至る麻末あれども細工の妙

其彫の編笠被り一人あつて一々年代の中え自然と編笠
すれり下り顔りり眼口を金も彫りりりりりりりりりり
當時あぞハスもあぬあれは諸しり彫るは是魂くりり
まありりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
因より一昨の中浅草奥山より生人形といえ見
世物りり評者高き也るあ男女はえ世あえざれは死の
かき思ふあり甲群集あひりり官よりりりりりりりりりりり
礼の生れりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
厚きものりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
既ぬ大坂よりあつたがさるりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり



有様感多し不録しつゝあまふ人は者人形捺居しと見
しふそ念の入りし事人形にほいむれらる人形抄りぬ
けりつげ其之衣服も美なりしは是外に之ぬぬぬぬ
録にほいむれらる人形にほいむれらる人形抄りぬ
編註のいふ教を照しし御と同日なりし事其の意は海
子ありし事なりしとてつてをあらしとつてをあらし
とつてをあらしとつてをあらしとつてをあらし
とつてをあらしとつてをあらしとつてをあらし
とつてをあらしとつてをあらしとつてをあらし
とつてをあらしとつてをあらしとつてをあらし
とつてをあらしとつてをあらしとつてをあらし
とつてをあらしとつてをあらしとつてをあらし

部

